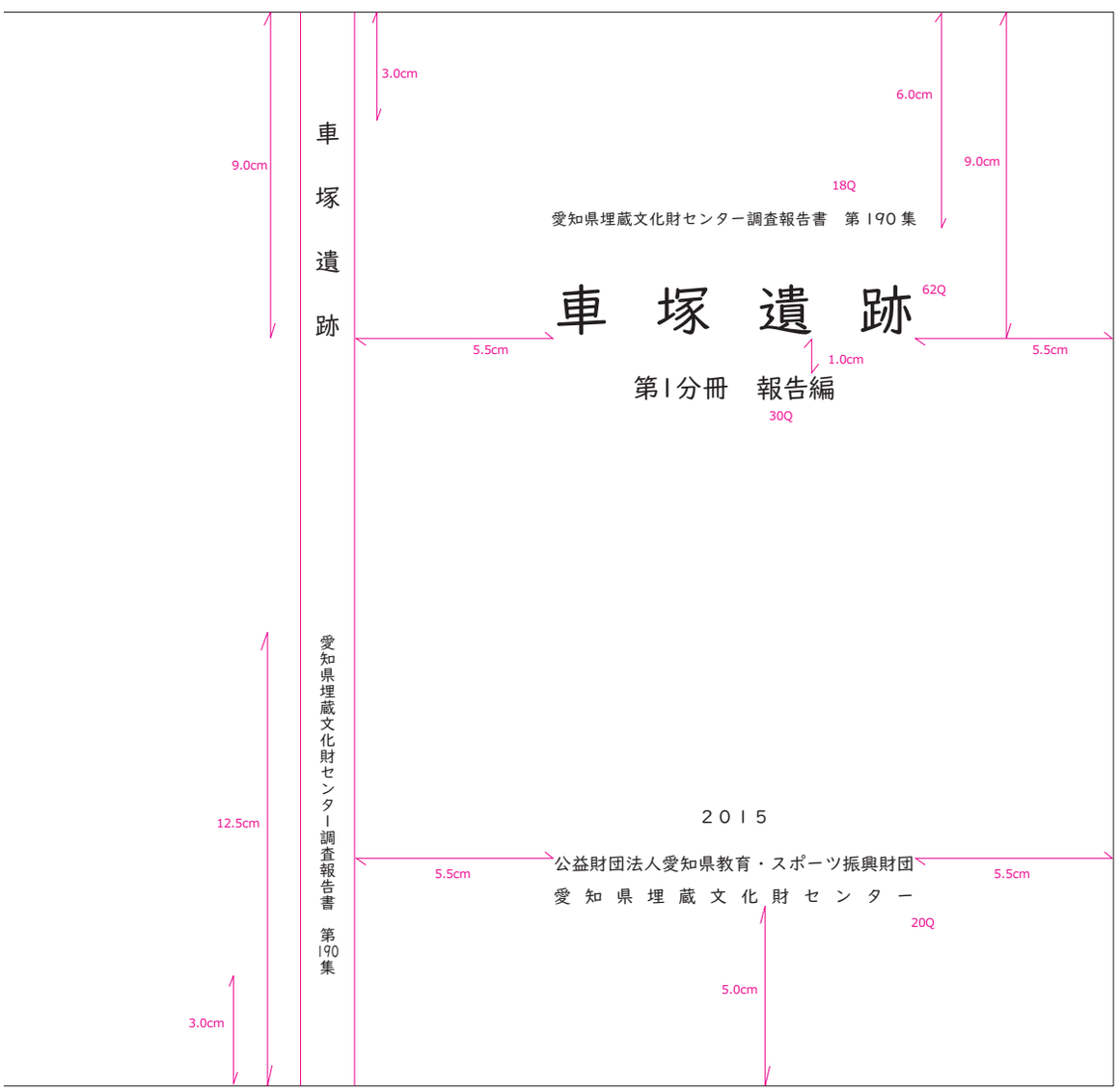
3

報告書作成編

A　報告書の仕様

UD フォントを使用した表紙・奥付に統一する。印刷にあたっては仕様書で提示。
報告書抄録は必須。
原稿執筆は、テキストデータにて作成。
図面・写真データから図版データ作成。
テキストデータ＋図版データから報告書編集（DTP）。
以上の作業工程管理し、報告書原稿を完成させる。その後印刷工程。
編集者会議　主担当者が表紙・背表紙・抄録・奥付を作成し、各担当者に配布する。仕様書で提示する。

報告書の表紙の仕様



報告書本文体裁タイプ A

1.2cm

45 字× 42 行 BIZ UDP 明朝 13Q　1,890 字

ヨコ 16.0cm

テキスト版面
天 3.0cm

タテ 24.0cm

縄文時代の遺跡として、草創期の有舌先頭器が採集されている中原遺跡（大口町）、早期の土器と石器が出土している北替地遺跡（大口町）等がある。弥生時代の遺跡として、昭和 30 年頃に中期の磨製石鏃が採集された桐野遺跡（江南市）、終末期の竪穴遺構等が確認された大御堂遺跡（大口町）等がある。曽本二子遺跡（江南市）からは後期の赤彩広口壺（第・図 1）等が昭和 32 年に採集されている。

古墳時代の遺跡として、平成 17 年に個人住宅建設中に発見された布袋下山北遺跡（江南市）がある。黒褐色の遺物包含層中からは古墳時代前期のS字甕（第･図 3）等が出土している。上ゲ遺跡においては、古墳時代前期から中期の円筒埴輪が採集されている。

江南市小折・曽本地区には古墳時代中期から後期を中心とする多数の古墳が分布し、「小折古墳群」とも称されるが、消滅した古墳も多い。南山町遺跡の北側には富士塚古墳が近接する。古墳は径 30m の円墳ともされるが、造出付円墳、前方後円墳の可能性も指摘されている。古墳南西の天王山遺跡では昭和 32 年に中期後半から後期前半の円筒埴輪（第・図 4 ～ 14）と形象埴輪（同 15）が採集され、前方後円墳が存在した可能性も指摘されている。

白木遺跡の西側には白木古墳、いわき（岩木）塚古墳（滅）、白亀塚古墳（滅）が近接する（いずれも大口町）。現存する白木古墳は径 12m の円墳とされる。いわき塚古墳は昭和初期、盛土を除去した際に「横穴式石室が現れ」たことから「岩き塚」と呼ばれ、地籍図（第・図）に残る地割からは径 21m の円墳に復元される。乳文鏡、大刀と三角穂式鉄鉾、須恵器等の遺物が大口町歴史民俗資料館に収蔵されているが（第・図・第・図 1 ～ 13）、鉄鉾や大刀は白亀塚古墳から発見されたともされ、帰属は明らかではないとのことである。平成 13 年に大口町からの依頼で愛知県埋蔵文化財センターが大刀をX線撮影したところ、刃関に花文の象嵌があることが判明した。神福神社古墳（大口町）は全長 54m の前方後円墳ともされるが、それを疑問視する意見もある。社殿付近からは平成 16 年に須恵器（第・図 14）が採集されている。

タイプA（1段組 見出しなし）

曽本二子山古墳（江南市）は全長 60m の前方後円墳で、明治 20 年の発掘調査で金銅装馬具等が発見されている。馬具等は東京国立博物館に収蔵されている。

7世紀第3四半期に造営された長福寺廃寺（一宮市）は昭和 14 年、尾張地域最初に発掘調査が行われた古代寺院としても著名である。伽藍配置は不明である。付近からは金銅誕生釈迦仏立像と金銅天部立像がも出土している。

周辺の古代の遺跡については、いずれも内容、性格が不明である。江南市木賀一帯の遺物出土地は現在、長塚遺跡として登録されている。昭和 32 年から同 45 年にかけて採集された7世紀から8世紀の須恵器、土師器等（第・図 1 ～ 15）が江南市歴史民俗資料館と一宮市博物館に収蔵されている。特筆される遺物として、「岡本」、「七十」の刻書須恵器（同 7・8）、「美濃」施印須恵器（同 10）がある。近接する桐野遺跡においても、昭和 30 年頃に「美濃」施印須恵器が採集されている。

天王山遺跡で昭和 32 年に採集された8世紀の須恵器（第・図 16）、瓦塔は一宮市博物館に収蔵されている。同時に収蔵された遺物中には「美濃」施印須恵器（同 18）も含まれるが、出土地や収蔵の経緯は不明である。

その他、江南市歴史民俗資料館には「小折富士塚周辺」、「木賀、小折富士塚周辺」として収蔵されている須恵器を中心とする遺物があるが、「木賀」出土として『市史』に掲載されている遺物と混在していることから、出土地には疑問も付される (第・図)。

その他、古代から中世の遺跡として、上源寺遺跡（江南市）がある。平成7年の発掘調査においては、奈良時代の建物が検出され、須恵器、土師器、灰釉陶器等（第・図）が出土した。

堀尾吉晴の故地との伝承もある堀尾氏邸跡（大口町）は、平成 21 年の発掘調査で堀尾氏が活躍した 16 世紀代に営まれた屋敷地の一角が明らかとなった。生駒屋敷跡（江南市）は小折村領主としての生駒氏の屋敷で、絵図、地籍図からは屋敷地が復元され、「小折城」の存在も推定されている。

ノド 2.6cm

地 3.0cm

ノンブル左右端 BIZ UDP 明朝 12Q

報告書本文体裁タイプ B

1.2cm

見出し 8 文字 BIZ UDP ゴシック 12Q

40 字× 42 行 BIZ UDP 明朝 13Q
1,680 字

テキスト版面
天 3.0cm

縄文時代
弥生時代

縄文時代の遺跡として、草創期の有舌先頭器が採集されている中原遺跡（大口町）、早期の土器と石器が出土している北替地遺跡（大口町）等がある。弥生時代の遺跡として、昭和 30 年頃に中期の磨製石鏃が採集された桐野遺跡（江南市）、終末期の竪穴遺構等が確認された大御堂遺跡（大口町）等がある。曽本二子遺跡（江南市）からは後期の赤彩広口壺（第・図 1）等が昭和 32 年に採集されている。

古墳時代

古墳時代の遺跡として、平成 17 年に個人住宅建設中に発見された布袋下山北遺跡（江南市）がある。黒褐色の遺物包含層中からは古墳時代前期のS字甕（第・図 3）等が出土している。上ゲ遺跡においては、古墳時代前期から中期の円筒埴輪が採集されている。

小折古墳群

江南市小折・曽本地区には古墳時代中期から後期を中心とする多数の古墳が分布し、「小折古墳群」とも称されるが、消滅した古墳も多い。南山町遺跡の北側には富士塚古墳が近接する。古墳は径 30m の円墳ともされるが、造出付円墳、前方後円墳の可能性も指摘されている。古墳南西の天王山遺跡では昭和 32 年に中期後半から後期前半の円筒埴輪（第・図 4 ～ 14）と形象埴輪（同 15）が採集され、前方後円墳が存在した可能性も指摘されている。

白木遺跡の西側には白木古墳、いわき（岩木）塚古墳（滅）、白亀塚古墳（滅）が近接する（いずれも大口町）。現存する白木古墳は径 12m の円墳とされる。いわき塚古墳は昭和初期、盛土を除去した際に「横穴式石室が現れ」たことから「岩き塚」と呼ばれ、地籍図（第・図）に残る地割からは径 21m の円墳に復元される。乳文鏡、大刀と三角穂式鉄鉾、須恵器等の遺物が大口町歴史民俗資料館に収蔵されているが（第・図・第・図 1 ～ 13）、鉄鉾や大刀は白亀塚古墳から発見されたともされ、帰属は明らかではないとのことである。平成 13 年に大口町からの依頼で愛知県埋蔵文化財センターが大刀をX線撮影したところ、刃関に花文の象嵌があることが判明した。神福神社古墳（大口町）は全長 54m の前方後円墳ともされるが、それを疑問視する意見もある。社殿付近からは平成 16 年に須恵器（第・図 14）が採集されている。

タイプ B（1 段組 見出しつき）

曽本二子山古墳（江南市）は全長 60m の前方後円墳で、明治 20 年の発掘調査で金銅装馬具等が発見されている。馬具等は東京国立博物館に収蔵されている。

古代寺院

7世紀第3四半期に造営された長福寺廃寺（一宮市）は昭和 14 年、尾張地域最初に発掘調査が行われた古代寺院としても著名である。伽藍配置は不明である。付近からは金銅誕生釈迦仏立像と金銅天部立像がも出土している。

古代の遺跡

周辺の古代の遺跡については、いずれも内容、性格が不明である。江南市木賀一帯の遺物出土地は現在、長塚遺跡として登録されている。昭和 32 年から同 45 年にかけて採集された7世紀から8世紀の須恵器、土師器等（第・図 1 ～ 15）が江南市歴史民俗資料館と一宮市博物館に収蔵されている。特筆される遺物として、「岡本」、「七十」の刻書須恵器（同 7・8）、「美濃」施印須恵器（同 10）がある。近接する桐野遺跡においても、昭和 30 年頃に「美濃」施印須恵器が採集されている。

天王山遺跡で昭和 32 年に採集された8世紀の須恵器（第・図 16）、瓦塔は一宮市博物館に収蔵されている。同時に収蔵された遺物中には「美濃」施印須恵器（同 18）も含まれるが、出土地や収蔵の経緯は不明である。

その他、江南市歴史民俗資料館には「小折富士塚周辺」、「木賀、小折富士塚周辺」として収蔵されている須恵器を中心とする遺物があるが、「木賀」出土として『市史』に掲載されている遺物と混在していることから、出土地には疑問も付される（第・図）。

ノド 2.6cm

中世の遺跡

その他、古代から中世の遺跡として、上源寺遺跡（江南市）がある。平成7年の発掘調査においては、奈良時代の建物が検出され、須恵器、土師器、灰釉陶器等（第・図）が出土した。

タテ 24.0cm

地 3.0cm

ヨコ 16.0cm

4

ノンブル左右端 BIZ UDP 明朝 12Q

報告書本文体裁タイプ C

1.2cm

23 字× 42 行　2 段組 BIZ UDP 明朝 13Q

1,932 字

段間 0.6cm
（2文字分）

テキスト版面
天　3.0cm

縄文時代の遺跡として、草創期の有舌先頭器が採集されている中原遺跡（大口町）、早期の土器と石器が出土している北替地遺跡（大口町）等がある。弥生時代の遺跡として、昭和 30 年頃に中期の磨製石鏃が採集された桐野遺跡（江南市）、終末期の竪穴遺構等が確認された大御堂遺跡（大口町）等がある。曽本二子遺跡（江南市）からは後期の赤彩広口壺（第・図 1）等が昭和 32 年に採集されている。

古墳時代の遺跡として、平成 17 年に個人住宅建設中に発見された布袋下山北遺跡（江南市）がある。黒褐色の遺物包含層中からは古墳時代前期のS字甕（第・図 3）等が出土している。上ゲ遺跡においては、古墳時代前期から中期の円筒埴輪が採集されている。

江南市小折・曽本地区には古墳時代中期から後期を中心とする多数の古墳が分布し、「小折古墳群」とも称されるが、消滅した古墳も多い。南山町遺跡の北側には富士塚古墳が近接する。古墳は径 30m の円墳ともされるが、造出付円墳、前方後円墳の可能性も指摘されている。古墳南西の天王山遺跡では昭和 32 年に中期後半から後期前半の円筒埴輪（第・図 4 ～ 14）と形象埴輪（同 15）が採集され、前方後円墳が存在した可能性も指摘されている。

白木遺跡の西側には白木古墳、いわき（岩木）塚古墳（滅）、白亀塚古墳（滅）が近接する（いずれも大口町）。現存する白木古墳は径 12m の円墳とされる。いわき塚古墳は昭和初期、盛土を除去した際に「横穴式石室が現れ」たことから「岩き塚」と呼ばれ、地籍図（第・図）に残る地割からは径 21m の円墳に復元される。乳文鏡、大刀と三角穂式鉄鉾、須恵器等の遺物が大口町歴史民俗資料館に収蔵されているが（第・図・第・図 1 ～ 13）、鉄鉾や大刀は白亀塚古墳から発見されたともされ、帰属は明らかではないとのことである。平成 13 年に大口町からの依頼で愛知県埋蔵文化財センターが大刀をX線撮影したところ、刃関に花文の象嵌があることが判明した。神福神社古墳（大口町）は全長 54m の前方後円墳ともされるが、それを疑問視する意見もある。社殿付近からは平成 16 年に須恵器（第・図 14）が採集されている。

曽本二子山古墳（江南市）は全長 60m の前方後円墳で、明治 20 年の発掘調査で金銅装馬具等が発見されている。馬具等は東京国立博物館に収蔵されている。

7世紀第3四半期に造営された長福寺廃寺（一宮市）は昭和 14 年、尾張地域最初に発掘調査が行われた古代寺院としても著名である。伽藍配置は不明である。付近からは金銅誕生釈迦仏立像と金銅天部立像がも出土している。

周辺の古代の遺跡については、いずれも内容、性格が不明である。江南市木賀一帯の遺物出土地は現在、長塚遺跡として登録されている。昭和 32 年から同 45 年にかけて採集された7世紀から8世紀の須恵器、土師器等（第・図 1 ～ 15）が江南市歴史民俗資料館と一宮市博物館に収蔵されている。特筆される遺物として、「岡本」、「七十」の刻書須恵器（同 7・8）、「美濃」施印須恵器（同 10）がある。近接する桐野遺跡においても、昭和 30 年頃に「美濃」施印須恵器が採集されている。

天王山遺跡で昭和 32 年に採集された8世紀の須恵器（第・図 16）、瓦塔は一宮市博物館に収蔵されている。同時に収蔵された遺物中には「美濃」施印須恵器（同 18）も含まれるが、出土地や収蔵の経緯は不明である。

その他、江南市歴史民俗資料館には「小折富士塚周辺」、「木賀、小折富士塚周辺」として収蔵されている須恵器を中心とする遺物があるが、「木賀」出土として『市史』に掲載されている遺物と混在していることから、出土地には疑問も付される（第・図）。

その他、古代から中世の遺跡として、上源寺遺跡（江南市）がある。平成7年の発掘調査においては、奈良時代の建物が検出され、須恵器、土師器、灰釉陶器等（第・図）が出土した。

堀尾吉晴の故地との伝承もある堀尾氏邸跡（大口町）は、平成 21 年の発掘調査で堀尾氏が活躍した 16 世紀代に営まれた屋敷地の一角が明らかとなった。生駒屋敷跡（江南市）は小折村領主としての生駒氏の屋敷で、絵図、地籍図からは屋敷地が復元され、「小折城」の存在も推定されている。

タイプ C（２段組）

タテ 24.0cm

ノド 2.6cm

ヨコ 16.0cm

地 3.0cm

ノンブル左右端 BIZ UDP 明朝 12Q

報告書抄録の仕様



報告書抄録

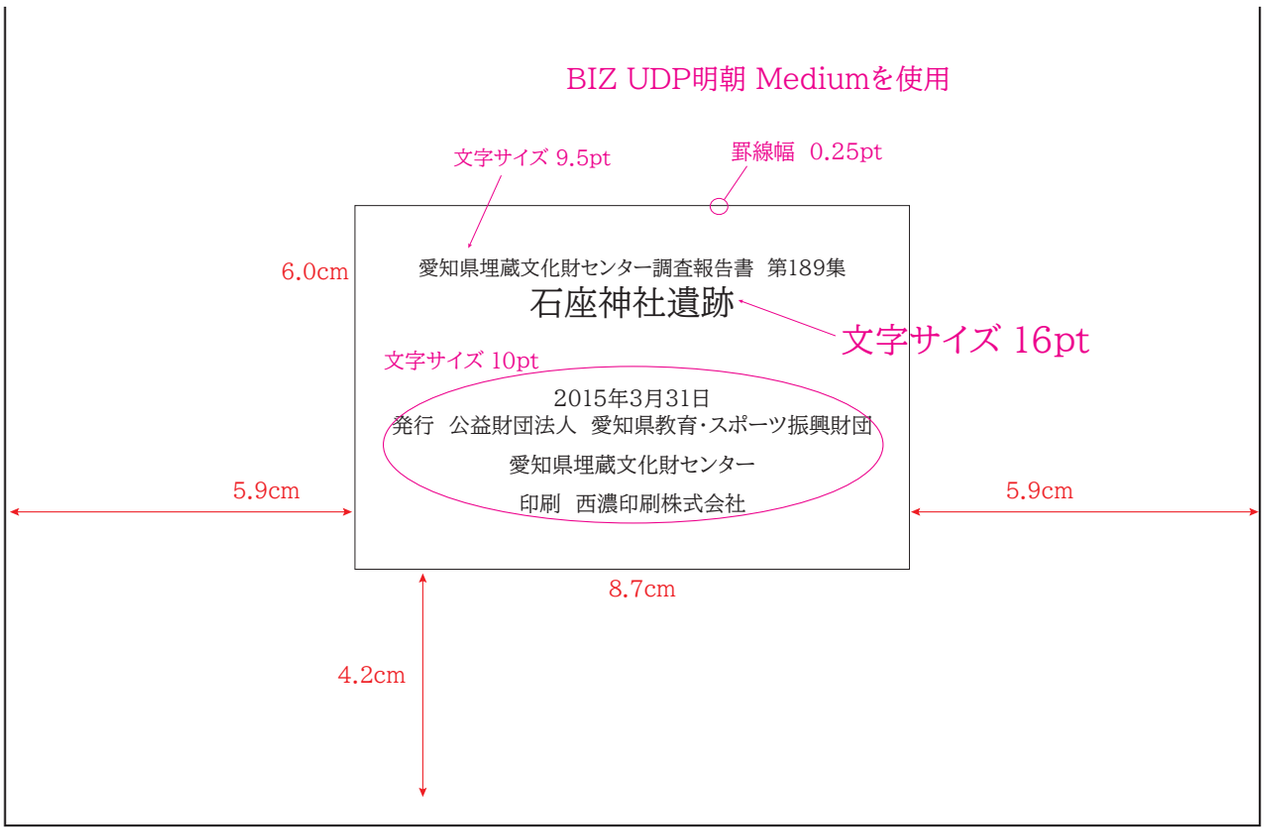
ふりがな	はねいせき
書　　名	羽根遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第166集
編著者名	○○○○(編) 川添和暁 ○○○○ ○○○○ ○○○○
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ケ須町野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2010年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
はねいせき 羽根遺跡	あいちけん とよかわし 愛知県豊川市 はぎちょう 萩町	23207	820042	34度 52分 10秒	137度 19分 39秒	2009.04.23～ 2009.09.01	4,100	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
羽根遺跡	集落	戦国時代 ～ 江戸時代	掘立柱建物跡、溝、石組み、石垣、井戸、土坑等	土師器(皿・鍋)、瀬戸美濃窯産陶器、石塔・石器、銭貨、金属製品、木製品等	石塔類の集中廃棄

文書番号	発掘届出(19埋セ第117号・第118号　2008.3.12) 通知(19教生第2987号　2008.3.25) 終了届・保管証・発見届(20埋セ第65号　2008.9.1) 鑑定結果通知(20教生第1559号　2008.9.30)
要約	本遺跡は、山陰川東岸の丘陵端部に立地している。調査では主に戦国時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が確認された。当該期には墓域や屋敷地などが展開していることが判明した。屋敷地は、斜面に地山の削平と盛り土等で整地して平場を築いており、それぞれを溝で区画している。溝は部分的に石組みや暗渠をもったものも確認されている。今調査で当該地域の近世の集落を考える上で貴重な資料を得ることができたと考えられる。

報告書奥付の仕様


BIZ UDP明朝 Mediumを使用
文字サイズ 9.5pt
罫線幅 0.25pt
6.0cm
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第189集
石座神社遺跡
文字サイズ 16pt
文字サイズ 10pt
2015年3月31日
発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
印刷 西濃印刷株式会社
5.9cm
5.9cm
8.7cm
4.2cm

報告書印刷の仕様書

仕様書

1 品 名　愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第● 集 『 ● ● 遺跡』
2 版 式　オフセット印刷
3 部 数　300部
4 規 格　A4判 縦型
5 頁 数　●頁(表紙・見返しは除く)
6 活 字　写真植字(DTPにて組版すること)
7 製 本　糸かがりとじ　あじろとじ　PUR製本
8 入 稿　フルデジタルDTP渡し　DTP渡し＋一部指示あり
挿図(データ・原図)　版下原図●点

使用OS　Mac　／Windows
使用ソフト　インデザイン(　●)・フォトショップ(　●)・イラストレータ(　●)

中表紙から抄録・奥付までの頁数

製本は三択
（目安：150頁以下はあじろとじ，
PUR製本300～350頁前後まで可能）

9 備 考

表紙は固定

仕様の内容

A 頁 数　表紙…　4頁（片面白）×　●分冊
本文・図版…　●頁(抄録・奥付を含む)
カラー図版・写真図版…　●頁
写真図版(オフセット　白黒　または　ダブルトーン)　●頁

これらの総計が上の5頁数

B 組 版　DTP組版
本文写植横打…フォント名●　体●級(　●字×●行、●段、行間 ●)
注記…　フォント名●　体●級　図表見出し…　フォント名●　体●級
表組み作成●点
その他の割付は指示通り　提出した割付表を参考にすること

C 製 版　表紙…1色刷り
カラー図版…(スクリーン175～200線4色刷り)
写真図版…(オフセット　白黒・ダブルトーン・カラー　)(スクリーン175～200線　1・2色刷り)
本文…1色印刷(スクリーン175～200線)　●頁
2色(●)●頁・4色(●●●)●頁・カラー印刷●頁

D 校 正　表紙・本文…版下校正3回
カラー図版・写真図版…版下校正3回(本紙色校正1回含む)

本文中でモノクロとカラー
（2色刷）の両方があるときは
指定色・頁数も明示

E 用 紙　白色度70%以上の用紙を使用
表紙…レザック80　こそめ　210Kg(四六判換算)
カラー図版…アート・マットコート　62.5Kg・76.5Kg(菊判換算)
写真図版…　マットアート　62.5Kg・76.5Kg(菊判換算)
本文…　マットコート　62.5Kg・76.5Kg(菊判換算)
見返し…　上質紙　57.5Kg(A判換算)

目安：100頁以下は
厚め76.5Kgを選択

F 抜 刷　無し
G 備 考　最終印刷データ類、および印刷用PDFをDVD-Rなどにて返却すること
※写真・図版本画像入り、インデザインにて編集したファイルおよび使用したデータを含む。
正誤表添付もあり。検査用に完成品納入時に、編集者に1冊別送のこと。